



増設した日酸TANAKA製の出力6キロワットファイバーレーザー切断機「FMR II-TF6000」

藤原鋼材

出力6キロワット

ファイバーレーザー増設

板厚30ミリまで対応

関東地区の鋼材流通、藤原鋼材(本社)東京都港区、藤原雅之社長)はこのほど、座間支店(神奈川県座間市)に併設する工場で出力6キロワットのファイバーレーザー切断機1基を増設し、受注拡大につなげている。投資額は約1億円。加工範囲は板厚1・6から最大30ミリまで対応可能となったほか、夜間操業も可能となり、高稼働を推移している。

受注拡大、夜間操業も

増設した設備は日酸TANAKA製の出力6キロワットファイバーレーザー切断機「FMR II-TF6000」。従来から所有するCO₂タイプの出力量2キロワットレーザー切断機は定期的なメンテナンスが必要だったが、ファイバータイプの新型機ではほぼメンテナンスフリーとなることでランニングコストの大幅減にもつながる見込み。向け先は製缶や機械

レーザー切断機2基での夜間操業体制を構築することで、短期期ニーズへの対応力を高めている。

同社では働き方改革の一環としてオペレーターの多能工化を進めており、操作面での互換性もあることから、従来機と同様の日酸TANAKA製の増設を決めた。今回の増設により、工場の生産量が拡大し、外注加工が

減少。内製化による納期短縮の効果も出ている。

座間工場における切板加工はレーザー切断機2基、プラスマ切断機1基、ガス溶断機2基の計5基体制となっている。今後は座間支店の倉庫改修、バンドソーの更新など、新たな投資も視野に入れ、さらなる受注拡大に努めていく方針だ。

会社案内刷新

藤原鋼材はこのほど、会社案内を刷新した。販売先へのPRにつなげていきたい(藤原社長)とし、表紙を薄板やH形鋼、山形鋼、異形種鋼など各種鋼材をモチーフにしたデザインに変更。内容は写真を多用しているほか、社長あいさつや同

社の強み、事業内容などを最新の状況に刷新し、紹介している。



刷新した会社案内